

2024. 9. 9

【米国雇用統計（24年8月）】

雇用者数は予想下回るも、失業率は低下

～労働需給の緩和は継続も、9月の利下げ幅は0.25%と予想～



経済調査部 エコノミスト
前田 和孝

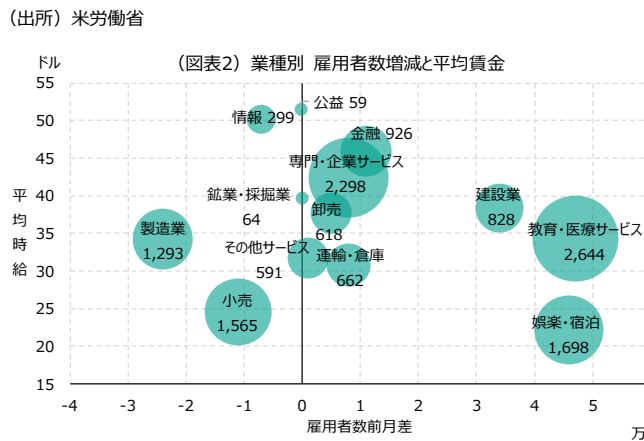
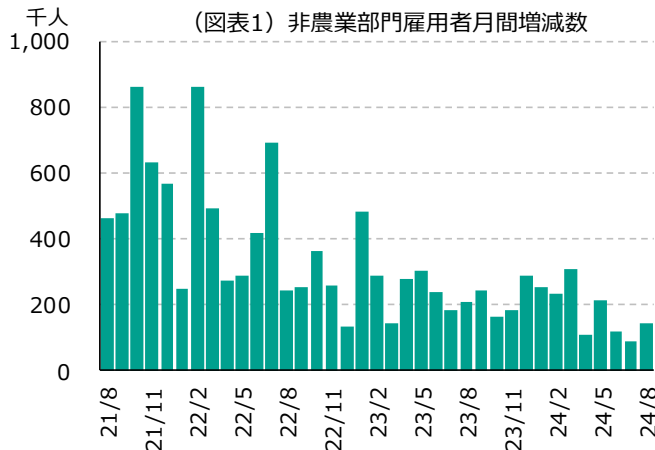
ポイント

- 8月の非農業部門雇用者数は前月比+14.2万人と、市場予想（同+16.5万人）を下回った。トレンドを示す3ヵ月後方移動平均も、3ヵ月連続でコロナ禍前の5年平均値を下回った
- 一方、一時帰休者の減少などにより失業率は4.2%と前月から低下。時間当たり賃金は前年比+3.8%と、3ヵ月ぶりに伸びが拡大
- ウォラー理事やウィリアムズ総裁の発言を見る限り、今回の雇用統計は9月FOMCにおける利下げ幅の決定打にならず。現段階で筆者は、米連邦準備制度理事会が0.25%の利下げを実施するとの予想を維持

1. 雇用者数は市場予想を下回る

8月の非農業部門雇用者数は前月比+14.2万人と、市場予想（同+16.5万人）を下回った。また、過去分は、6月が同+17.9万人から同+11.8万人へ、7月が同+11.4万人から同+8.9万人へ、2ヵ月合計で8.6万人の下方修正となった（図表1）。非農業部門雇用者数のトレンドを示す3ヵ月後方移動平均は前月比+11.6万人と3ヵ月連続でコロナ禍前の5年平均値（同+20.0万人）を下回った。

今月の雇用者数の伸びを部門別に見ると、物品生産部門（7月：前月比+2.0万人→8月：同+1.0万人）は前月から鈍化し、民間サービス部門（同+5.4万人→同+10.8万人）と政府部門（同+1.5万人→同+2.4万人）は拡大した。業種別に見ると、物品生産部門では、建設業（同+1.3万人→同+3.4万人）は伸びが拡大したが、鉱業・採掘業（同+0.1万人→±0.0万人）は鈍化し、製造業（同+0.6万人→同▲2.4万人）はマイナスだった（図表2）。製造業は、輸送機器（同+0.8万人→同▲1.2万人）の落ち込みが大きかった。民間サービス部門では、10業種中7業種が増加、3業種が減少



※バブルの大きさは当該業種の雇用者数 (万人)
(出所) 米労働省

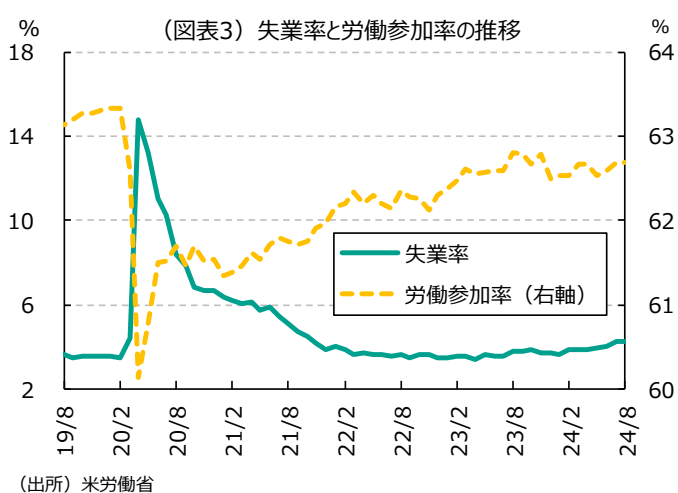
となった。プラス幅が大きかったのは、教育・医療サービス（同+5.5万人→同+4.7万人）、娯楽・宿泊（同+2.4万人→同+4.6万人）である。もっとも、教育・医療サービスは2022年12月以来の低い伸びにとどまっている。一方、小売（同▲0.3万人→同▲1.1万人）、情報（同▲1.5万人→同▲0.7万人）、公益（同▲0.0万人→同▲0.0万人）はマイナスだった。小売はこれで3ヵ月連続のマイナスとなる。百貨店や衣料・服飾雑貨・靴・宝飾品などで雇用者数が減少しており、高級品の売れ行きが悪化している可能性がある。専門・企業サービスの内訳で、労働市場全体の先行指標となる人材派遣サービス（同▲1.8万人→同▲0.3万人）は3ヵ月連続のマイナスとなった。

政府部門では、州政府（同+1.0万人→同+0.1万人）は前月から伸びが鈍化したものの、連邦政府（同±0.0万人→同+0.1万人）、地方政府（同+0.5万人→同+2.2万人）は拡大した。

2. 失業率は5ヵ月ぶりに低下

8月の失業率は4.2%と前月から0.1%ポイント低下した（図表3）。失業率が低下するのは5ヵ月ぶりである。今月は、労働力人口が前月比+12.0万人となり、労働参加率は62.7%で横ばいだった。労働力人口の内訳を見ると、就業者数が同+16.8万人、失業者数は同▲4.8万人となった。労働力人口と就業者が増加し、失業者が減少する良好な形である。また、失業者を理由別に見ると、失職者が同▲16.2万人、離職者が同▲1.0万人、労働市場への再参入者が同▲2.8万人、労働市場への新規参入者が同+6.8万人となり、失職者が大きく減少している。失職者の内訳では、一時帰休者が同▲

19.0万人、一時帰休者以外が同+2.9万人（うち、恒久的失業者：同+0.6万人、雇用期間満了者：同+2.2万人）となっている。一時帰休者は7月に同+24.9万人と大きく増加したが、8月は減少となり、前月の増加はテキサス州に上陸したハリケーンの影響だった可能性が示唆される。一方、就業者を勤務形態別に見ると、パートタイムが同+52.7万人、フルタイムが同▲43.8万人となっており、パートタイムが就業者増の主因となっている状況は変わらない。



3. 時間当たり賃金の伸びは拡大

週平均労働時間は34.3時間と、前月（34.2時間）から増加した。部門別では、民間サービス部門（7月：33.2時間→8月：33.2時間）は変わらなかったが、物品生産部門（同39.7時間→同39.8時間）が増加した。物品生産部門では鉱業・採掘業（同44.2時間→同44.6時間）、建設業（同38.9時間→同39.0時間）、製造業（同39.9時間→同40.0時間）のいずれも増加している。総労働投入時間（雇用者数×週平均労働時間）は、雇用者数の伸びが拡大し、労働時間が増加したため、前月比+0.4%と2ヵ月ぶりのプラスとなった。

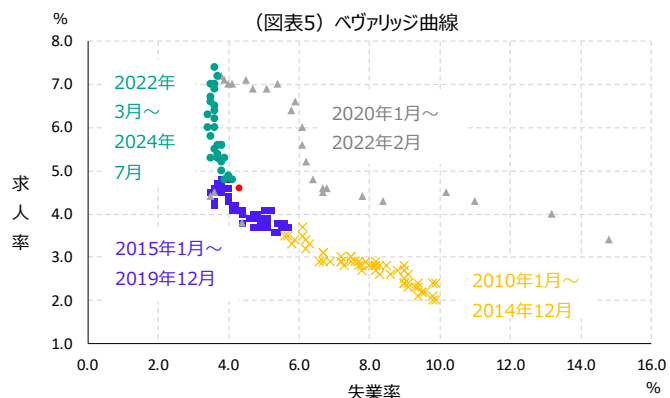
時間当たり賃金は前年比+3.8%と、3ヵ月ぶりに伸びが



拡大した（図表 4）。前月比でも +0.40% と、前月（同 +0.23%）から拡大し、過去 12 ヶ月平均（同 +0.31%）も上回った。部門別では、物品生産部門（7 月：前月比 +0.28% → 8 月：同 +0.33%）、民間サービス部門（同 +0.23% → 同 +0.43%）のいずれも伸びが拡大している。内訳を見ると、物品生産部門では、非耐久財（同 +0.26% → 同 +0.62%）がけん引役となる形で製造業（同 +0.24% → 同 +0.35%）の伸びが拡大した。一方、民間サービス部門は、10 業種中 6 業種で拡大、4 業種で鈍化となった。娯楽・宿泊（同 +0.32% → 同 +0.23%）、その他サービス（同 +0.64% → 同 +0.41%）などは伸びが鈍化した。一方、小売（同 ▲0.08% → 同 +0.70%）がプラスに転じたほか、公益（同 +0.59% → 同 +0.96%）、情報（同 +0.42% → 同 +0.92%）などで高めの伸びとなっている。これらの業種は今月雇用者数が減少しており、人員削減の結果、生産性の高い業務に従事する従業員の割合が高まり、賃金が押し上げられた可能性がある。

4. 9 月 FOMC における 0.25% の利下げ予想を維持

8 月の雇用統計では、非農業部門雇用者数の伸びが市場予想を下回った。一方、失業率は前月から低下し、時間当たり賃金が上昇するまちな結果だった。市場では、米金利が発表直後から上下に振れるなど方向感の定まらない動きとなった。ジャクソンホール会合における講演でパウエル議長は、「労働市場がこれ以上弱まることは望まない」と述べるなど、米連邦公開市場委員会（FOMC）メンバーの焦点はすでに物価から労働市場に移っている。8 月は失業率が低下したものの、「サム・ルール」（失業率の直近 3 ヶ月移動平均と過去 12 ヶ月の最低値との乖離幅が 0.5 ポイントを上回ると景気後退局面入り）の発動基準は満たし続けている。また、ベヴァリッジ曲線の「変曲点」も近づきつつある。2022 年 3 月の利上げ開始以降、失業率を上昇させることなく求人率は低下してきたが、過去の傾向を見る限り、4% 台前半になると失業率が上昇に向かうという関係性が見いだせる（図表 5）。7 月の雇用動態調査における求人件数は 767.3 万件だが、これが 650 万件程度まで減少すれば、失業率がさらに上昇する展開が予想される。



（出所）米労働省公表資料より明治安田総研作成

一方、雇用統計以外の関連指標を見ると、8 月の ISM 景況感指数における雇用指数は、製造業は 46.0 ポイントと弱めだが、非製造業は 50.2 と好不況の境目となる 50 を上回っている。また、8 月最終週の新規失業保険申請件数は 22.7 万件で、過去の景気後退局面では概ね 40 万件を超えていたことを考えれば依然として低水準にとどまっている。ウォラー理事は雇用統計後の講演で、「今後の統計で労働市場の大幅な悪化が示された場合」と条件を付けたうえで、「利下げの規模やペースに関してはオープンマインド」と述べている。また、ニューヨーク連銀のウィリアムズ総裁は「雇用統計についてはもっと詳細に内容を見極めたい」と、大幅利下げには慎重な姿勢を示している。労働需給は今後も緩和傾向で推移するとみられるが、8 月のまちな雇用統計結果も踏まえると、現段階で筆者は、米連邦準備制度理事会が 9 月に 0.25% の利下げを実施するとの予想を維持する。

本レポートに関するご取材やお問い合わせは以下までご連絡ください

明治安田総合研究所 エコノミスト 前田 和孝

電話番号：03-6261-7947

e-mail：ka3-maeda@myri.co.jp

※本レポートは、明治安田総合研究所が情報提供資料として作成したものであり、いかなる契約の締結や解約を目的としたものではありません。掲載内容について細心の注意を払っていますが、これによりその情報に関する信頼性、正確性、完全性などについて保証するものではありません。掲載された情報を用いた結果生じた直接的、間接的トラブルや損失、損害については、一切の責任を負いません。またこれらの情報は、予告なく掲載を変更、中断、中止することがあります。

●発行元●株式会社明治安田総合研究所 〒102-0073東京都千代田区九段北3-2-11 TEL03-6261-6411